

「絵本・応援プロジェクト」
ロゴ(くすのき)のデザインを
提供)



絵本と絵本に関わるすべての人を応援します 絵本・応援プロジェクト

くすのきしげのりさん発足

絵本にかかわるすべての人にメールを送ろう。鳴門市在住の児童文学作家くすのきしげのりさん(59)がこのほど、「絵本・応援プロジェクト」(YELL2021)を発足した。専用

ウェブサイトで参加を募っており、すでに国内外から反響が寄せられている。「さまざまな垣根を越えて『声』を集め、『絵本』を守り応援する力にしたい」。そう意気込むプロジェクト代表くすのきさんに、活動意義や発足理由などを聞いた。

「絵本・応援プロジェクト

YELL2021」とは、どのような活動ですか。

長引くコロナ禍、先の見えない自粛ムードに子ども大人も心をすり減らしています。書店や出版社もかつてない向かい風の中にある。この苦境を乗り越えるために、立場や組織の枠を超えて「絵本が好きだ」という気持ちを共有し、絵本にかかわるすべての人に向けてメールを送る「仲間」を募ることにしました。

参加は簡単です。プロジェクトの理念に賛同した上で、ウェブサイトに参加を申し込んでください。参加してくれた皆さんはそれぞれの活動の中でプロジェクトのロゴを使い、応援の輪を広げてほしい。ロゴは画家の古山拓さん(58)＝仙台市在住＝が担当してくれて、とてもすてきな仕上がりになりました。

「プロジェクトを企画したきっかけは。

絵本は作家だけがつくるものではありません。編集者やデザイナー、印刷、流通、書店を経て読者



くすのきさん

読者の愛する気持ち共有

に届き、読んでくれる人がいて初めて「絵本」として成立します。この1年、私は絵本の必要性をあらためて実感しました。自宅待機中の子どもたちに絵本を読ませようという動きは活発でしたし、絵本を買い求める大人も増えました。一方で、倒産する書店や、アルバイトなど生活費を稼ぐ手段を失う若手作家・画家たちの窮状も耳にしました。彼らがいなければ絵本の未来はありません。自分に何ができるかと考え、みんなの応援の声を集めるプロジェクトを企画しました。

「読者にメッセージを。

私は絵本や絵本を愛する人たちの力を信じています。大切な絵本文化を守り続けるため、皆さんにもぜひ応援表明の輪に加わり、一緒にメールを送ってもらいたい。「それだけ」と思われるかもしれませんが、その「声」が不安を抱える人たちにとって大きな励みとなります。何かを良くするために行った一人一人の小さな行動は、より大きな力になります。よろしく願います。

参加申し込みは「絵本・応援プロジェクト」YELL2021「ウェブサイトを」(https://www.ehon-ouenproject.com)。(植松裕子)